

J R 四国労組ニュース

2024年4月30日（No.26 / 1終） 発行責任者 / 大谷 清 編集責任者 / 和田 庄平

「車両床下機器カバー紛失」について

4月10日に今治駅構内において、予讃線・第5629M列車車両の床下機器カバーが紛失している事象が確認された。

本部はこの事象に対し、4月11日付発第77号「予讃線・第5629M列車『車両床下機器カバー紛失』について」申し入れを行い、会社より以下のとおり回答があった。

1. 今回の事象をどのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

予讃線の今治駅構内で、早朝、出区点検中の運転士が7001号の床下機器カバーが無くなっているのを発見しました。万が一走行中に同部品が落失した場合、沿線住民の方々や沿線作業員の死傷事故に繋がる恐れがあります。今回は幸いにも、負傷者はなく列車の運行にも影響はありませんでしたが、車両故障三悪（落とすな、燃やすな、開けて走るな）は、人命にも関わりかねない重大な事象であり、決して発生させてはいけないことであると重く受け止めています。

2. 車両床下機器カバーが紛失した原因を明らかにされたい。

紛失の一報を受けて、関係社員による予讃線の高松～伊予市駅間、土讃線の多度津～琴平駅間の添乗による捜索を行いました。また、保線区社員による徒歩巡回に合わせて捜索を依頼していますが、当該部品は4月23日現在、発見出来ておりません。

車体側の調査を行いました。前後に三つ並んで取り付けているカバーのうち、紛失した真ん中のカバーが有った場所の周囲には、動物や樹木など何らかの異物等が衝突して出来た破損や傷は有りませんでした。また、カバー紛失の原因が取付部の破損による落下の場合、周囲の機器が破損したり傷が残ると思われませんが、そのような痕跡も有りませんでした。

3. 再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

今回の事象を受け、同構造の7000系車両17両の一斉点検を行い、カバー取付状態に異常が無いことを確認しました。今後も仕業検査や交番検査の定期検査の際、カバーの取付状態を確実に確認するとともに、カバーを取り付けるフックや止め金に破損等があれば速やかに修繕を行います。

幸い、この事象によるお客様及び沿線への被害や、他の列車への影響はなかったが、営業列車における部品等の紛失は、一歩間違えれば重大事故に繋がる恐れのある事象であった。

J R四国労組は、安全・安定輸送の確立がすべてに優先し、尊い命を預かる私たちの重大な使命であることを強く訴えるとともに、引き続き会社に対する「安全へのチェック機能」強化の運動を展開する。

以上